

## 宗教心理学的研究の展開(10) ー宗教心理学研究会発足 10 年目を迎えてー 研究会発足時の様子および 2005 年度科研費プロジェクトに関する報告

西脇 良（南山大学）

宗教心理学研究会（以下、研究会）の発足から 10 年の節目を目前に控え、①研究会立ち上げに関する経緯、②研究会として初の取り組みとなった 2005 年度科研費研究の概要報告、を行う。

### 1. 研究会立ち上げに関する経緯

2003 年 7 月のメーリングリスト立ち上げをもって発足した本研究会のそもそもの発端は、当時横浜国立大学の大学院生であった松島公望氏との、日本青年心理学会第 7 回全国大会（1999 年 10 月、立教大学にて）での出会いであった、と記憶している。心理学視点からの宗教性研究に孤立感を覚えていた報告者にとって、宗教性発達の問題に真正面から取り組んでいる氏との出会いは飛び上がるほど嬉しかったことを思い出す。研究者ネットワークの立ち上げの必要性を語り合い、松島氏自身の行動力と人脈づくりにより着々と準備がすすみ、研究会の発足をみた次第である。研究会の会長として、社会心理学の視点から日本人の宗教性を研究し、国内外にもその成果を発表してこられた金児暁嗣氏をお迎えできたことも、研究会の社会的プレゼンスを確固たるものとしたといえる。研究会は、発足当初から近接領域を意識し、社会心理学・社会学・宗教学等からの参加を呼びかけた。この点が、本研究会の質的な成長を促し続けている、といえるだろう。

### 2. 2005 年度科研費研究プロジェクト

徐々に会員が増加し、研究会としての体制も整いつつあった 2005 年、研究会は公的資金を受けた研究に初めて取り組んだ。「研究成果の社会への発信・貢献」を意識する契機となったという点で、この科研費研究プロジェクトは画期的な出来事であった。研究題目は「宗教心理学の体系化に関する研究ー宗教心理学の社会的貢献にむけてー」であり、本研究会の強みの一つである学際性（同居性というべきか）が映し出された、意欲的な体系化の試みであった。研究チームは、研究代表者（筆者）、研究分担者 9 名、研究協力者 5 名により構成された。研究の目的、および、そのための研究計画は以下の通りであった。

研究目的	研究計画
情報交換および研究交流	… 研究発表会の開催、ニューズレターの発行、データベース化、企画会議の開催、メーリングリスト上での議論
宗教心理学の体系化への準備	… 文献研究
学問上の貢献に向けた準備	… 調査研究
学会設立準備	… 年会費制度導入の検討

### （１）情報交換および研究交流

情報交換および研究交流に関する成果として、第 1 に、4 回にわたる企画会議および科研費専用メーリングリスト上での率直かつ深みのある議論を通じて、研究者間の交流が活性化されたことが挙げられる。また、企画会議の内容はその都度、宗教心理学研究会のメーリングリストにも報告されており、科研費研究メンバー以外の研究会会員も情報を共有することができた。こうした研究者間のきめ細かい情報交換の努力は、必然的に次年度の科研費申請へと繋がっていくこととなった。

第 2 に、2 度にわたる研究発表会の開催が挙げられる。1 つは、日本心理学会第 69 回大会における第 3 回研究発表会である。「宗教心理学研究の展開(3)―宗教意識研究の現在―」をテーマに 2005 年 9 月 12 日開催され、ジュマリ・アラム、松田茶茶、河野由美（以上、本研究メンバー）、岡村宏美（関西医科大学付属病院）による研究発表に続き、齋藤耕二（東京学芸大学名誉教授）による指定討論が行われた。フロアを交えての質疑応答も活発に行われた。もう 1 つは、公開研究発表会の開催である。「宗教心理学研究の現在」をテーマに 2005 年 10 月 16 日開催され、西脇良、杉山幸子（以上、本研究メンバー）による研究発表に続き、加藤司、ミカエル・カルmano（以上、本研究メンバー）、渡邊学（南山大学総合政策学部教授・南山大学宗教文化研究所）による指定討論がおこなわれた。フロアとの活発な討論も行われた。

第 3 に、2 回にわたる「宗教心理学研究会ニューズレター」の発行である。ニューズレター第 4 号は、「科研費研究プロジェクトに関わって」と題する特集を組んで 2005 年 9 月 12 日に発行された。ニューズレター第 5 号は、「第 3 回研究発表会報告」「公開研究発表会報告」と題する特集を組んで 2006 年 2 月 10 日に発行された。とくに第 5 号では、各研究発表会の事後点検評価をも内容としており、今後の活動展開にとって重要な示唆を与えるものとなっている。

なお、第 3 回研究発表会の内容は、宗教心理学研究会ホームページ上にも報告されている。公開研究発表会についても掲載予定である。

### （２）宗教心理学の体系化への準備

宗教心理学の体系化に向けた準備については、「文献研究チーム」によってなされた「現代社会の問題で宗教心理学の対象となりうるテーマ」の収集とグルーピング、および、グルーピングされたテーマ毎の研究レビュー、を挙げることができる。

### （３）学問上の貢献に向けた準備

宗教心理学が、その研究活動を通して、現代日本社会に対しどのような学問上の貢献を果たしうるのかについて、本研究では予備的な検討をおこなった。すなわち、2 度実施された予備調査の結果分析を通じて、「社会問題への宗教の貢献可能性」「宗教性と Spirituality のイメージとその相違」「宗教心理学に対する関心」の検討がおこなわれた。

### （４）学会設立準備

「日本宗教心理学学会」の設立準備に向け、整備をすすめた。主として、年会費制の正式導入に向けた準備をおこなった。宗教心理学研究会メーリングリスト上での提案、およびニューズレター第 5 号への折り込み印刷での提案を通じて研究会会員の周知をはかった。その結果、2006 年 4 月からの年会費制実施の運びとなった。

※ 2005 年度科研費研究報告書の概要は、「宗教心理学研究会」ホームページよりダウンロードできる。

※ 同報告書（冊子体）を希望の方は筆者までお問い合わせください（郵送、ただし冊数僅少）。

（以上）